

「松江星の会」の活動紹介

「松江星の会」の前身である「松江天文同好会」は、1984年（昭和59年）4月1日に松江市とその近郊の星仲間により発足しました。2009年（平成21年）9月26日、同好会設立25周年をひとつの節目として記念総会を開催し、会の活動方針や規約を全面的に見直し、会の名称も新たに「松江星の会」と改め、新たな活動をスタートしました。

主な活動は、星を観る会や松江市立天文台の天文教室の開催、毎月の定例会、中国山地の澄み切った星空での合宿などで、それらを通じて会員は星を楽しんでいます。一方で、会員個人でも世界に通用する観測を続けていることにも特徴があります。

会員個人個人の星に対する価値観を尊重しながら、特別な星の知識や天体望遠鏡がなくても、みんなで星を楽しんでいこうというのが、活動のテーマとなっています。

松江星の会の活動をいくつかご紹介します。

1 各種観望会の実施

気候の良い夏から秋にかけて、町内会、自治会、学校のクラス単位等の観望会（星を観る会）を積極的に開催しています。最近ではリピーターの団体もあります。

2 街角スターウォッチング

人通りの多いJR松江駅前に望遠鏡を設置、道行く人に星を観てもらおう企画です。昨年から本格的に始めましたが、以外と多くの方が関心を持って望遠鏡を覗かれます。

3 伝説の星空

夏に広島県境の「竜王山、立烏帽子山」で一泊の夏合宿をしています。標高1,200メートルを越える場所では驚くほど星が見えます。伝説の星空と呼んでいます。

4 市役所天文教室

松江市は屋上に天文台ドームを設置した市役所庁舎を持っています。ここで市の行事として天文教室、天文台公開を実施しています。従来年に数回ですが、月に1回程度出来ないかと計画中です。

5 「SUN-i n星の集い」への参加

SUN-i n星の集いは、山陰の天文愛好家が年に1回一堂に会して交流を深めるイベントで、山陰の天文団体や施設が持ち回りで開催しており、すでに25回を数えます。昨年は佐治アストロパーク、今年は日原天文台が会場となります。

6 今年の注目イベント

昨年は東亜天文学会の総会をお世話させていただきましたが、今年は10月の当初に「はやぶさカプセル」の展示が松江市で予定されています。どのような形でお手伝いできるかはまだ明らかではありませんが、今から楽しみです。

「松江星の会」の活動についてはホームページで詳しく紹介しています。